

氏名	浅井 宏美	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学、助産学、周産期医療・看護				
学位	博士（看護学）				
学歴	2001年茨城県立大学保健医療学部看護学科卒業、2008年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了、2015年聖路加国際大学（旧聖路加看護大学）大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2008年首都大学大学健康福祉学部助教、2010年聖路加看護大学看護学部助教、2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年～同大学准教授				
所属学会（役職）	日本母性看護学会（査読委員）、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本小児看護学会、日本生殖看護学会、日本新生児学会				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	助産師基礎教育テキスト2022年版第6巻産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 第4章 新生児のニーズとケア	共著	あり	日本看護協会出版会； P.185-204	編集責任 江藤宏美，著者 岡永真由美，常盤洋子，井村真澄，浅井宏美，他7名	2022.2
2	看護学入門12巻 母子看護（母性の看護，小児の看護）	共著	あり	メヂカルフレンド社； P.382-393	編集 石井榮一，田村敦子，著者 江口真理子，太田雅明，平井洋生，石前峰齊，松垣高史，浅井宏美，他13名	2021.11
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	テーマセッション「患者・家族の意見を尊重した意思決定支援：看護師間の価値観の相違に焦点を当てて－ロールプレイを通じて考える－」	共同	日本小児看護学会第31回学術集会、オンライン開催		井上みゆき、権守礼美、浅井宏美、齋藤かおり、杉野由佳、竹島雅子、川名佑季、他（テーマセッションの司会・進行担当役）	2021.9
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B）	e-learningおよびピアサポートを活用した周産期看護職の教育プログラムの開発		研究代表者	2016.4～2022.3	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	ハイリスク周産期	○	6	4年次助産系履修学生を対象に、ハイリスク新生児への看護について講義し、事例や病棟内でのケアの画像、DVD教材として活用し、実際の看護について理解が深められるよう工夫した。また、臨床で活躍する産婦人科医・新生児科医・看護職を非常勤講師・ゲストスピーカーとして招き、より実践的な内容となるよう工夫した。		
2	母性看護学Ⅱ（方法論）		5	①では、基本的な観察方法アセスメント、看護技術について講義し、新生児の実際の映像を活用し、理解が深まるよう工夫した。②では、生殖医療の基礎知識だけでなく、不妊治療・高度生殖医療を受ける対象の理解、ケアの視点やNPO支援団体などについても紹介し、幅広い知識と深く理解できるような工夫をした。		

3	看護倫理		3	大学院博士前期課程の科目担当者として、「研究倫理」および「生殖医療・周産期医療における倫理調整」の講義を担当した。本科目は教員の講義に加えて、ゼミ形式で倫理調整が必要となる各テーマに沿った院生のプレゼンと討議を通して、倫理的課題を理解するものである。討議では、倫理的課題を多角的な視点から分析、捉えることができるようファシリテートし、お互いの意見を尊重し、自身の倫理的感受性を高められるよう支援した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア		35	4年助産系学生を対象に出生直後の新生児のケア演習の主担当、内診技術演習、分娩期の看護の演習、助産過程の演習を担当。当日の演習前に電子教材での事前課題を課すなど遠隔と対面での学習を組み合わせる学習効果を上げる工夫した。分娩介助実習の前に知識・技術が定着するよう、時間割のコマ以外にも学生の介助技術練習への個別の指導なども実施した。
2	周産期のケア		21	3年次助産系履修学生を対象に、講義では①妊娠期・胎児のヘルスアセスメントとケア、②育児支援について担当し、画像を多く取り入れた講義スライド、DVD教材などを活用し、理解が深められるよう工夫した。また、模擬集団教育のための教育指導案や教育媒体作成の指導を行い、グループ毎の発表会を通して、お互いの成果物に関する情報共有、評価を行い、実践的な学びにつなげることができた。
3	母性看護学Ⅱ(方法論)		9	2年次生を対象に、小グループに分かれての技術演習では、新生児モデル人形や乳房モデルを用いて、進行性変化の観察とアセスメント、授乳支援についてのロールプレイ(褥婦・看護者役)のデモと解説、演習を通して基本的看護技術が修得できるよう指導・支援した。また、看護過程のグループ演習の担当教員として効果的な議論ができるようファシリテート・支援した。
4	遺伝と看護	○	8	4年次生を対象に本科目への目的意識・意欲を高め、主体的な参加を促すため、導入となる初回講義や効果的なグループダイナミクスが動くような工夫とファシリテートを行い、看護職者として必要な倫理的感受性・態度が身につくよう支援した。また、障がいを持つ子どもを育てる当事者をゲストとして招聘、体験談の語りから学生への効果的な学びにつながるよう調整し、円滑な科目運営が行えるようグループ担当FT教員とも調整を図った。
5	リプロダクティブヘルス論		4	大学院博士前期課程の科目担当者として、周産期のファミリーセンタードケアに関する講義を担当した。本科目は、周産期にある女性と家族における健康増進に関連する課題および、各ライフステージにおける女性の性と生殖の健康増進に関連する課題について学ぶ科目である。教員の講義に加えて、ゼミ形式での文献抄読を通して、修士課程1年目の院生のプレゼンテーションスキルや論文のクリティーク(批判的吟味)の手法を学び、修士課程2年目に向けて自身が取り組む研究テーマを見出すことができるように指導・支援した。
6	リプロダクティブヘルス演習		15	本科目は大学院博士前期課程の科目であり、生涯を通じた女性の自己決定とセルフケアの向上を目指した女性の健康支援の方法を学びながら、履修者自身の修士論文研究計画書を作成するための科目である。前期の「リプロダクティブヘルス論」に続き、ゼミ形式での文献抄読を通して、プレゼンテーションスキルや論文のクリティーク(批判的吟味)の手法を学べるよう支援し、各自の研究テーマが有意義かつ新規性のある具体的な研究計画書となるよう、具体的な調査方法についても倫理的配慮として講じる具体策、実現可能性の観点から、科目責任者・担当者と共に多角的に助言・支援を行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2021/5/10~7/2 (8週間のうち3週間担当)	3年次生を対象に、春日部市立医療センターおよび川口市立医療センター産科病棟での母子受け持ち実習の指導を行った。COVID-19禍にて久しぶりの臨地実習で不安の大きい学生に対して、安全確保に留意し、個々のレディネス・能力に応じた受け持ち対象者への看護実践、看護過程の記録展開指導、カンファレンスの運営指導等を行い、概ね例年通りの目標達成ができた。

2	総合実習（母性看護学領域）	臨地および学内 実習:2021/7/12 ～7/31(3週間)	4年次生を対象に獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科病棟における臨地実習指導、COVID-19の影響にて臨地実習不可となった学生グループの学内実習を並行して担当した。学内実習では、教員が褥婦役・臨地指導者役を演じてロールプレイを行い、臨地実習を想定した演習を通し、事前事後学習および3週間の実習指導を通して、4年次の実習目標を達成し、期待した学習効果を上げることができた。
3	助産学実習Ⅱ	学外実習： 2020/8/17～ 10/2(6週間)	COVID-19禍において、4年次助産系履修学生2名を実習施設担当教員として担当した。補習期間なしの6週間で、COVID-19禍以前の例年よりは分娩介助例数は少なかったものの、2020年度と同様、それまでの学内代替演習等の教育効果や臨床指導者の効果的な指導により、産婦に対する分娩進行状況のアセスメントとケア、分娩介助技術について、臨床側からの評価も高く、期待していた実習目標を達成することができた。
4	IPW実習	学内実習： オリ2コマ+実 習4日間	2021年度の新たなIPW実習の運営方法において、リーダーFT教員として、実習施設（草加市立病院）の施設FTおよび学内教員FTと入念な打合せ・調整をした上で、受け持ち対象者や多職種の専門職インタビューを通して、他大学含む学部学生6名の担当教員として遠隔実習指導を行った。施設FTとの連携・協働を心がけ、グループ討議では、主体性を尊重しつつ、学生の能力を引き出し議論が活発になるようなファシリテートを行い、チーム形成を促し、最終成果物として最終発表会へとつなげることができた。
(4) 論文指導			
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数
1	卒業論文	2021.4～2022.3	主指導 4名 副指導 名
2	修士論文	2021.4～現在	主指導（指導教員） 名 副指導（指導補助教員） 2名
(5) その他			
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	3・4年生助産系関連科目履修者の学修支援・就職活動支援	2021.4～2022.3	助産系関連科目の担当教員として、3・4年生の助産系履修者の学修支援・就職活動を支援した。
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師			
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ
1	高校出張講座（県立川口北高等学校）	本学地域産学連携センター	大学模擬講義（進路指導の一環）「新生児・未熟児の看護-赤ちゃんの集中治療室ってどんなところ？」
2	高校出張講座（群馬県立館林女子高等学校）	本学地域産学連携センター	大学模擬講義（進路指導の一環）「新生児・未熟児の看護-赤ちゃんの集中治療室ってどんなところ？」
3	中学校出張講座（春日部市立緑中学校）	本学地域産学連携センター	性に関する学習講演会「一緒に考えよう 私たちの性」
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	一般社団法人 日本母性看護学会	「日本母性看護学会誌」専任査読委員	2019.4～2022.3
2	一般社団法人 日本生殖看護学会	「日本生殖看護学会誌」専任査読委員	2015.4～現在
3	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（SPU学会）	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会第12回学術集会 企画委員	2021.4～2022.3
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	地域貢献活動	学会誌Japan Journal of Nursing Science - Wiley Online Library	論文の査読
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	情報図書委員会の委員	2020.4～2022.3
2	学科等における委員会等	看護学科内の財務および総務担当業務を担う総務委員	2020.4～2022.3
3	学科等における委員会等	看護学科内のカリキュラム検討委員会のメンバー	2021.4～現在

6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		